

『家族の中心』となる暖炉を生み出す

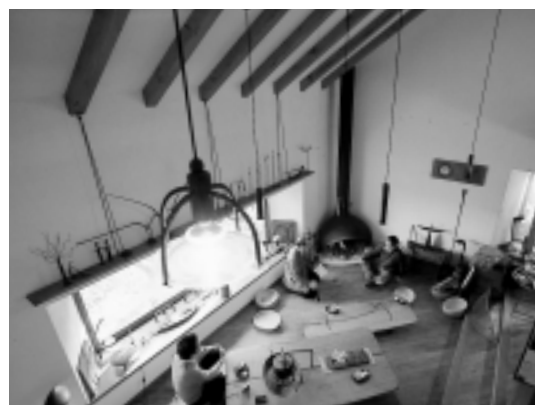
「火」のある暮らしの現場から

アインズ

ナビゲーター
造形家、
有限会社アインズ代表取締役
松岡 信夫
Nobuo Matsuoka



まさに『家族の中心』と呼ぶに相応しい力強さを感じさせる鉄製の暖炉。白い壁とのコントラストも美しい。窓からは、自然のままの庭園越しに、美しい川の流れが望める。窓際に並べられた小物も松岡氏の作品



「火」の持つ力を活かす

近代文明を生み出す大きな原動力となった鉄は、素材としての能力に加え、熱を加えることで、自在にその姿を変えられるという特性から、海外では造形作品の素材として用いる作家も多いが、日本ではまだまだ少数派である。しかし少ない中でも、独創的な鉄の装具を生み出している造形家があり、その一人が松岡信夫氏だ。

公共施設や店舗、個人住宅などに採用されている松岡氏の作品の中でも、特に有名なのが、暖炉をはじめ照明器具や門塀といった建物の部材である。

「力のある建築家が生み出す住宅に負けない、存在感があるものを生み出す」として、松岡氏が言うように、「確かに建物と部材が相乗効果を生み出し、温かみや優しさがある個性的な空間が実現している。特に鉄製の暖炉は、その質感もあり、まさに『家族の中心』と呼ぶに相応しい重量感がある。

「暖房器具としては、暖炉よりはストーブの方が暖かいですが、揺らめく炎には、自然と人を集める力があるので、暖炉を設けることが多いですね」

今回の取材場所に指定された松岡氏の別荘「依水」にも、一階のリビングの一角に、黒い鉄製の大きな暖炉が設置されている。そして、その暖炉を正面とする

ように、床の木は並行に並べられ、またイス代わりになる階段が設けられている。実際に、暖炉に火が点されると、訪れた人は自然にその前に集まり、中には床に横になり寝てしまつ人もいるという。

「人間には、火を求める本能があります。私はそれをもとにして、人が暮らし、いく上で精神的な拠り所となる、住まいに必要な『家族の中心』を生み出すために、積極的に火を利用しています」

確かに『家族の中心』を失つた現代の住宅が、人間関係の希薄化といった諸問題の遠因にもなっているかもしれない。「人間の生活を、何らかの形で豊かにしたいと考えて、これからも作品を造っていきます」と松岡氏。その素材として暖炉は、これからも大きな役割を果たしていくに違いない。

(文責・CEL編集部)

有限会社アインズ

【連絡先】

〒270-1443 千葉県東葛飾郡沼南町鷺野谷333-1
TEL:04-7191-8460
FAX:04-7191-8493
http://homepage2.nifty.com/ains_matsuoka/
mail: ains_matsuoka@nifty.com



ナビゲーターの松岡信夫氏

建築家の高橋修一氏の作品「猪鼻邸(寿庵)」に設置された松岡氏が作った暖炉



デザインはもちろん、工房では松岡氏自らの手で作品づくりを行っている



松岡氏が生まれ育った京都で開かれた個展「鉄楽」展では、通路沿いに鉄製のローソク立てが置かれ、人々を会場に誘った